

桐生繊維業界の実態

昭和57年1月～12月

桐生市繊維振興協会

昭和 57 年 12 月末現在

桐生繊維業界の概況

1. 加盟団体数	22 団体（桐生商工会議所繊維部会含）	
2. 産地収入		
	（単位万円）	（昨年比較）
（1）生産高	460 億 1,364	（101.6%）
（2）加工収入高	304 億 1,376	（88.6%）
（3）販売高	319 億 0353	（101.4%）
合 計	1,083 億 3,093	（97.5%）
3. 総組合員数（事業所）	1,818 社	
4. 総従業員数（家族従業員含）	10,920 人	
	（男 4,572 人 女 6,348 人）	
5. 一事業所当り従業員数	6.0 人	
6. 一事業所当り生産販売加工高	5,959 万円	
7. その他参考		
	（単位万円）	（比較）
51年1月～12月産地収入	844 億 4,632	（100）
52年1月～12月 "	911 億 4,624	（108）
54年1月～12月 "	1,078 億 1,166	（128）
55年1月～12月 "	1,170 億 6,380	（139）
56年1月～12月 "	1,110 億 8,757	（132）

1. 組合員数及び従業員数

所属団体	組合員数 件	従業員数					従業員 平均年齢
		従業員		家族従業員		計 人	
		男人	女人	男人	女人		
桐生内地織物(協)	393	795	1,258	177	190	2,420	48
桐生織物(協)	733	378	431	654	972	2,435	46
桐生織物商業(協)	11	41	22	0	0	63	36
桐生織物産地元売(協)	31	98	44	11	22	175	41
両毛輸出織物整染(工)	29	498	285	0	0	783	45
桐生染色(協)	44	233	43	30	18	324	45
桐生繊維製品(協)	75	340	1,407	40	25	1,812	28
桐生服地(協)	(11)	(110)	(155)	(8)	(5)	(278)	(44)
桐生系商組合	28	45	11	8	4	68	—
東日本編レース(工)	32	31	38	32	27	128	46
桐生燃糸(工)	76	40	63	64	68	235	—
桐生婦人子供服製造(協)	9	27	128	8	9	172	30
両毛輸出スカーフ(協)	9	5	3	11	20	39	—
桐生織物整経(協)	105	6	41	124	126	297	53
桐生意匠(協)	52	14	2	19	18	53	37
桐生紋紙(協)	45	35	3	46	34	118	—
東毛ジャカード刺繍(協)	32	4	15	14	17	50	—
桐生刺繍商工業(協)	72	300	510	150	160	1,120	39
桐生金銀糸(協)	13	30	10	0	8	48	39
桐生織物買継商友会	27	7	4	26	27	64	41
群馬県綿スフ織物(工)	2	231	285	0	0	516	39
計	1,818	3,158	4,603	1,414	1,745	10,920	—

注 (1) 桐生服地(協)の数字は、他の組合と重複するため計から除く。

(2) 桐生系商組合の場合、組合員28社中8社の計です。

2. 生産・加工高及び受注（出荷）先区分（工業部門）

単位 万円

所属団体	生産高	加工高	計	昨年比較	県内	県外
桐生内地織物(協)	1,025,531	50,411	1,075,942	94 [%]	0	100 [%]
桐生織物(協)	1,773,875	—	1,773,875	111	—	—
両毛輸出織物整染(工)	—	475,200	475,200	103	30	70
桐生染色(協)	—	162,700	162,700	106	60	40
桐生繊維製品(協)	100,000	1,450,000	1,550,000	96	10	90
桐生服地(協)	(450,000)	—	(450,000)	(129)	15	85
東日本編レース(工)	179,473	—	179,473	89	100	0
桐生燃糸(工)	—	80,470	80,470	91	36	64
桐生婦人子供服製造(協)	33,919	68,788	102,707	34	100	0
桐生織物整経(協)	—	53,807	53,807	156	—	—
桐生意匠(協)	27,263	—	27,263	94	76	24
桐生紋紙(協)	43,745	—	43,745	101	79	21
東毛ジャカード刺繍(協)	35,000	—	35,000	100	0	100
桐生刺繍商工業(協)	800,000	700,000	1,500,000	88	100	0
両毛輸出スカーフ(協)	85,800	—	85,800	100	0	100
群馬県綿スフ織物(工)	496,758	—	496,758	105	0	100
計	4,601,364	3,041,376	7,642,740	96	—	—

注、桐生服地（協）の数字は他の組合と重複するため計から除く。

3. 販売高及び出荷先区分（商業部門）

単位 万円

所属団体	販売高	昨年比較	桐生市内	県内	県外
桐生織物産地元売(協)	944,097	92%	0	0	100
桐生織物商業(協)	1,012,627	101	5	0	95
桐生糸商組合	783,129	—	78	3	19
桐生金銀系(協)	230,000	100	87	8	5
桐生織物買継商友会	220,500	94	0	80	20
計	3,190,353	101	27	7	66

注，桐生糸商組合は組合数28社中8社分の数字です。

4. 内需向・輸出向区分

単位 万円

所属団体	内需向		輸出向		計
	金額	割合	金額	割合	
桐生織物(協)	952,027	54	821,848	46	1,773,875
桐生染色(協)	97,620	60	65,080	40	162,700
桐生織物商業(協)	209,505	21	803,122	79	1,012,627
桐生繊維製品(協)	155,000	10	1,395,000	90	1,550,000
桐生意匠(協)	20,844	76	6,419	24	27,263
桐生紋紙(協)	35,745	83	8,000	17	43,745
桐生金銀系(協)	85,000	37	145,000	63	230,000
桐生織物整経(協)	13,181	24	40,626	76	53,807

5. 各団体の取扱品目

団体名	品目 割合	品目				
		割合	割合	割合	割合	割合
桐生内地織物(協)	着尺帯地	染加工品	広巾			
	10	66	5	19		
桐生織物(協)	輸出向 婦人服地	内需向 婦人服地	インテリア 資材等	ネクタイ 生地	その他	
	38	22	27	5	8	
桐生織物商業(協)	化合織織物	化合織編物	二次製品	その他		
	68	10	12	10		
桐生織物産地元売(協)	着尺帯地	染加工品	広巾	その他		
	24	54	7	3	12	
両毛輸出織物整染(工)	ニット	合織	人絹	絹		
	55	40	3	2		
桐生染色(協)	レーヨン	合織	絹	綿、ウール等		
	41	34	10	15		
桐生繊維製品(協)	ブラウス	ワンピース	コート	その他		
	70	10	5	15		
桐生服地(協)	婦人服地	インテリア 資材				
	90	10				
桐生糸商組合	生糸	化合織	綿、スフ	その他		
	19	72	5	4		
東日本編レース(工)	カーテンレース	広巾衣料	細巾衣料	インテリア 用品	資材、 その他	
	80	9	4	4	3	

注、桐生糸商組合は組合員28社中8社分の数字です。

桐生撚糸(工)	絹撚糸	人絹撚糸	合繊撚糸		
	20	30	50		
桐生婦人子供服製造(協)	ブラウス	ワンピース	子供服	スーツ	その他
	78	8	7	2	5
両毛輸出スカーフ(協)	無地 スカーフ類	メタル スカーフ			
	50	50			
桐生織物整経(協)	整経				
	100				
桐生意匠(協)	帯	洋反	インテリア	夜具	着尺,その他
	25	15	15	10	35
桐生紋紙(協)	紋紙				
	100				
東毛ジャガード刺繍(協)	ワッペン	ハンカチーフ	その他		
	90	5	5		
桐生刺繍商工業(協)	婚礼関係	婚礼加工	ブラウス 加工	ハンカチ	雑貨 その他
	46	23	14	3	14
桐生金銀糸(協)	金銀糸	関連製品			
	87	13			
桐生織物買継商友会	帯地	着尺	染加工	二次製品	広巾服地
	75	10	6	5	4
群馬県綿スフ織物(工)	硝子 繊維織物	包帯, ナイ ロン, スフ	衛生材料品		
	21	1	78		

6. 生産加工部門の現有設備状況

所属団体	設備名	数量	所属団体	設備名	数量	
桐生内地織物(協)	広巾織機	237	桐生燃糸(工)	イタリー式燃糸機	259	
	並巾 "	2,106		リング式 "	4	
	小巾 " "	420		アップワインダー	6	
	レピア "	107		その他	121	
	計	2,870		計	390	
桐生織物(協)	超自動織機スレーガー	90	桐生婦人子供服製造(協)	本縫ミシン	190	
	" レピア	327		ロックミシン	76	
	自動及び普通織機	3,380		プレス	4	
	計	3,797		特殊ミシン	16	
両毛輸出織物整染(工)	精練漂白機	105	桐生織物整経(協)	計	286	
	乾燥機	116		整経機	133	
	染色機	150		糸繰機	10,640	
	幅出機	87		計	10,773	
	計	458		拡大機	51	
桐生染色(協)	染色機(常圧噴射式)	143	桐生意匠(協)	コピー機	8	
	" (高圧 ")	46		コンピューター	1	
	" (汎用)	49		その他	12	
	チーズ及チーク	69		計	72	
	計	307		ピアノマシン	188	
桐生織維製品(協)	縫製ミシン	1,800	桐生紋紙(協)	裁断機	50	
	プレス	100		編機	70	
	計	1,900		ワンプンチ	34	
桐生服地(協)	超自動織機	65		桐生刺繍商工業(協)	その他	20
	自動 "	42			計	362
	普通 "	165	横振ミシン		2,000	
	手織機	12	ジャカードミシン		3,000	
	計	284	計		5,000	
東日本編レース(工)	ラッセル機	158	群馬県綿スフ織物(工)	広巾普通織機	177	
				小巾 "	294	
				計	471	

7. 最近の推移（57年10月～58年2月）

項 所属団体	受注，引合の状況				販売（加工）単価の状況			
	増	変わらず	下降	前年対比	上昇	変わらず	下降	前年対比
桐生内地織物(協)			○	95 [%]		○		100 [%]
桐生織物(協)			○	80			○	90
桐生織物商業(協)		○		100		○		100
桐生織物産地元売(協)			○	93		○		100
両毛輸出織物整染(工)		○		100		○		100
桐生染色(協)	○			105		○		100
桐生繊維製品(協)		○		100		○		100
桐生服地(協)	○			108		○		100
桐生糸商組合			○	95			○	95
東日本編レース(工)			○	90		○		100
桐生撚糸(工)		○		100			○	90
桐生婦人子供服製造(協)		○		100		○		100
両毛輸出スカーフ(協)		○		100		○		100
桐生織物整経(協)		○		100		○		100
桐生意匠(協)			○	93			○	93
桐生紋紙(協)		○		100		○		100
東毛ジャガード刺繍(協)		○		100		○		100
桐生刺繍商工業(協)			○	90			○	90
桐生金銀糸(協)		○		100		○		100
桐生織物買継商友会			○	90	○			104
群馬県綿スフ織物(工)		○		100		○		100
計 (件数)	2	11	8	—	1	15	5	—

8. 昭和57年(1月~12月)の状況(事業概要)及び今後の課題

(1) 桐生織物協同組合

○商品, 消費者ニーズの変化について

消費者ニーズは多角的で大きな流れはあっても, 一定のパターンに集約されない時代がきた。また商品のサイクルは短かく10年前は1つの商品が5年続いたが, 昨今は1年である。例えばタフタ, サッカー, オーガンジーとニーズの変化は目まぐるしい。業界は商品の特性を組み合わせ目先の変わったものを市場に出して行かなければならない。

○状況, 事業概要

輸出向け, 内需向け共存の桐生広巾織物業界としては, 輸出向けの良し悪しが全般を支配するので, 何としても総販売額の2分の1の輸出額を確保しなければならない宿命にある。昭和57年は, 前年のリビア向け大量輸出品であったドリームの出荷が完了したため, その分1~3月の輸出数量が減少前年同期比86.6%~98.0%に推移した。

しかし, 4~5月は円が230~240円中心に安定したのとジョーゼット, タフタ, サッカー, オーガンジー, ドビー織物類の受注が増加し, 7月末までは順調な歩みが続けた。

しかし, 6月後半からの異常円安は海外に大きな不安を与え, 8月以降の出荷数量は前年同期比80%台に低迷した。円相場は, 11月25日の東京外国為替市場で一気に250円ラインを突き抜け248円を示した。これは米国の金利引下げに円買いドル売りの結果である。ともあれ輸出向けは, 8月以降出荷数量が減少したものの, 年間概ね設備は稼動したので輸出向けから内需向けに転換するものも少なく, 内地向け婦人服地はバロック調で独走し, 順調であった。インテリア部門は高級ものとして地歩を固めてあるので建築関連長期不況の中にも堅実な歩みをたどった。昭和57年はかくて輸出向け82億円余, 内需向け95億円余合計177億円余を獲得した。前年の

11%増である。このことは、業界が一致団結して、情勢を把握し、常に新商品開発、市場発掘に努力と国、群馬県、桐生市、の強力な指導の成果と言えよう。

○今後の課題

ファッションの多様化、個性化時代に適応し得る桐生広巾織物業界としては、今後一層商品分野の拡大を図り、商品の短サイクル化に対応して、目先の変った商品開発につとめなければならない。そして各企業は独自の目玉商品を持ち産地として多品種生産を形成することが必要である。仕向地も中近東一辺倒でなく、平均化に努力を傾注する。特に原油値下げは、桐生輸出に影響あるものと見なければならない。一方アメリカは、金利の引下げが続き、景気上向きが期待出来るから大いに力を入れて市場回復に全力を尽くすべきであろう。内需向けは産油国のオイルダラー引上げで、前半金融界に混乱を見ても後半国内景気の上昇で、期待が持てると思うので、輸出、内需を車の車輪として、組合活動を強力に推し進めるべきであろう。

(2) 桐生内地織物協同組合

○商品、消費者ニーズの変化について

以前として「フォーマル」中心であり変化は見られない。2～3年来ブームであった「辻が花」がこの時期にきて特に顕著であった。

○状況、事業概要

我々業界は厳しい環境の中で苦戦を強いられた年であった。

和装織物は需要の減退と需給のアンバランス、フォーマル化偏重によるカジュアル製品の不振、仮需要期の取引低調、卸商の仕入、小口選品買い傾向、返品率の増大及び売掛金回収長期化、西陣の主力商品である袋帯の過剰生産とダンピング、織着尺の量的減少、桐生特産の小袋帯の低迷等々、悪材料の累積により、産地組合員は特定業者を除いて、全般的に苦境に立たされた。

したがって年間生産額は帯地が7.4億円で前年比9.6パーセント、着尺は1.2億円で8.2パーセント、服飾工芸品8億円で9.5パーセント、広巾もの2.1億円で9.8パーセントであり、総計で11.5億円で前年比9.5パーセントとなった。

また織機の共同廃棄事業も、需給のバランスを図るための全産地的な事業であるが、当桐生内地協同組合では約270台の絹織機の処理を申請した。

このような状況の中で当組合としては業界の活路を切開くべく、集散地への移動販売会、新販路開拓、各種宣伝会を展開すると共に産地振興法にもとづく新製品開発、需要開拓、人材養成事業を積極的に推進した。

さらに、帯地、着尺、染加工品の三部門のうち染加工品部会を発展的に解消し、服飾工芸部会を新設、視野を広くした商品づくりに取り組み、また三つの青年会を一本化し、青年部として統合する等、新しい時代に対応する体制づくりを行った。

○ 今後の課題

・取引流通問題

生産者と元売商、買継商、及び卸問屋、前売店各々が相協議して、どうしたら和装の需要巻返しが、図れるかを真剣に考え、自己の利益のみに走らず、本来の使命に立戻ることが大切である。今の不安定な呉服の商取引形態を正常化するために、あらゆる努力をするべきであると考えます。市内元売商、買継商各位には、情報提供、製品指導の面にもう一段とご指導いただくと共に、売込みにも一層意欲的な活動を切望するものであります。

なお、メーカーとしても買ってくださいという消極的な姿勢でなく、自社の製品を自信をもって売り込んでいく態度が大切であると思う。

・製品づくり

それには商品力の優劣が問題となってくるので、常々の新製品開発が業者にとって不可欠な要素である。安易な物づくりでは売れない時代である。狙いどころをはっきりとし、消費者に訴える製品、独創的な商品の開発が要求

される。幸い桐生産地は多彩な分野があり、高度な技術を有しているが、他品種との交流を図り自社の特長にマッチした新製品を生み出す努力を期待するものである。

3) 桐生織物産地元売協同組合

○商品、消費者ニーズの変化について

- ① 山間部を始め、地方の小売店までも高級品を扱う店が多くなったが、現行の価格では全般的に売上増は期待出来ない。
- ② 江戸褌、訪問着、その他フォーマルなものを一時要求されたものの、全般的にみて、売れ行きは不調であった。七五三を除き、全般的に帯は製産過剰の嫌いがあった。
- ③ 小袋、軽装帯を始め、実用関係商品が極端に低調で加えて商品の選択が益々厳しく、売れる商品の範囲が非常に狭隘になったので消費者に之が着用の具体的な方法アイデアをPRしないと、フォーマル商品だけでは、なかなかついていけないので実用商品についても、それ相応の価格安のイメージを作り出す必要がある。

○今後の課題

桐生産地独自の商品カラーを考究することはフォーマル製品だけでなく、普段着等においても考えられることで一般消費者が例えばパーティー、茶会、その他の会合等に容易に着用出来る商品を開発して行くことを関連団体一体となって考えないと今後の呉服界は益々販売減少の一途をたどり産地は衰退するばかりである。又消費者が生活の中に一時の心の余裕をもたせるため、きもの必要性又は活動的なアイデア等についても桐生産地としての新製品に努力し、消費者の要求路線に入るための努力が必要と思う。今のまゝでは益々きもの離れを増長し、産地復興は期待出来ない、現行の内地織物の小巾製産では購売力の減少は免れない、早急に新分野の開発が絶対必要である。

(4) 桐生染色協同組合

○状況、今後の課題

今年は冷夏暖冬という異常気象のため景気の先行き悪化に一層の拍車をかける結果となった。日がたつにつれて全産業界への影響が気がかりである。

現状段階では企業努力も限界を越えているし、加工料金の値上げに踏み切る以外に道はない。繊維業界全般の不況の中で、心痛む思いであるが、染色業界の死活につながる問題だけに実施していかなければなるまい。

(5) 桐生繊維製品協同組合

○商品、消費者ニーズの変化について

アパレル業界は、暖冬等の気候異変により消費需要が大きく影響される状況です。消費者は手持ち商品と新しいアイテムのコーディネート化により豊かなファッション性を生み出しております。又刺しゅう等で付加を生み出す商品よりデザイン、素材の優れた商品を望んでおります。

○状況、事業概要

春夏物の受注は比較的順調でありましたが経済の低迷している中で消費の伸びは芳しくありません。

受注状況は、少ロット化が極端に激しくなり、品質的、技術的に高度な物が要求されてきたため、後半に近づくにつれ、効率が厳しくなってきました。

しかしそうした状況下ではありましたが、重衣料に比べて、落ち込みが少なく、全国ベースから観るとまだ恵まれている地区であります。

組合事業は、産地振興事業の新商品開発、新技術開発を進め、特にアタッチメントの改良改善をはかり技術講習会を開催しました。又創作技術展開催等にて産地PRと需要促進並びに雇用面に努めました。

○今後の課題

商品造りについては、技術面の強化が要求されるため、特殊設備を導入し、

技能研修で人材のレベルアップを図ることで。又流通については、安定した取引先を選別した上で、強いパイプ作りをすることです。

産地としては、業界の協力グループの確立の上で、適正規模化された企業体にするということです。

(6) 東日本編レース工業組合

○状況，事業概要

上半期（6月）までは概ね順調をたどっていたが、その後住宅産業の不振や、政府当局の政策にそった抑制などの影響が7月以降徐々に表われ初めた当桐生市の業者のほとんどが、別記の状況どおりカーテンレース製品か生産の80%を占めており、住宅産業の不振は大きく影響を被ってしまう。このため年末になっても回復の兆しが見えないカーテンレースは大別して2種類に分れている。1つはチェインラッセル製品であり、もう1つはジャガードラッセル製品である。チェインラッセルとは織物に例えるとドビー装置と同じようなもので、柄構成が必然的に限界がある。ジャカード製品は設備機械の上部にジャカード装置を取付ければ、柄構成が、大、小、自由に出来るものである。しかし最近ではチェインラッセルカーテンも徐々に減少されてジャカード製品に変りつつある傾向を示している。

○今後の課題

今後の見通しとしても、繊維産業は大きく転換を余儀なくされており、今までは大衆向製品として量産体形をとり、薄利多売方式であったが、今後は高付加価値製品と大きく転換しなければならない状況となってきた。流通機構においても今までは見込み扱いをしていたが、次第に当用買いの傾向になりつつあり、従って業者側においても見込み生産の危険性を大いに認識して、今後に処さなければならない。

(7) 桐生織物整経協同組合

○状況、事業概要

昭和57年度の状況は当地の独特で有る先染物の大規模な受注により2月から8月までは、ここ数年来にない充実した事業内容で有り120パーセントの仕事量がありました。

9月以降は80パーセント代の仕事量に落ちたものの全般的には最良の年であった。

○今後の課題

昭和58年度の見通しとしては、円高、ドル安、のため受注状況はあまりにも良い所がなく内需物も国内不況により活気はなく、整経業界もやっと70パーセント代の仕事量であろうかと思われます。秋ごろから、やや明るさが見えてくる事を期待している。

(8) 桐生意匠協同組合

○状況、事業概要

最近の小巾の傾向は染加工部門の製品に移行しているため織柄の仕事量は激減し、昨年を上廻る減少で低調であった。景気の低調による購売力の低下も、その仕事の減少を促していると思う。内地洋反は昨年よりやゝ増であった。輸出関係は中近東及びアメリカ等円レートの円安安定が好況を生んだので、仕事は昨年並であったが、10月以降、例年通り受注は減少した。内地小巾は昨年の激減がそのまま移行して、なおさらに減少している。レース関係についてはインテリヤ関係が低調で服地関係の仕事に変化している。

夜具についてはほとんど山梨産地の仕事であるが昨年より減少している。織物全体として低調を反映し約7パーセントの組合総売上の減少を見た。

○今後の課題

帯については尚一層の新商品の開発に努力をして他産地より、より良い商

品を生み出さなければならない。

織物業者の今後市場の開拓もさることながら、事業に意欲をもっていただきたい。

洋反の場合も新しい生地を桐生産地に求められているので、その市場に合ったものを開発するならば希望があると思う。

輸出については中近東市場は原油の値下げが今後どう影響するか問題であろうと思います。目新しいサンプルの製作が急務といえよう。

(9) 桐生刺繍商工業協同組合

○商品，消費者ニーズの変化について

婚礼関係は婚礼人口が激減のため、高級物に変わり、各企業努力により取引金額は増、ブラウス、他雑貨関係は他産地にオートメジャカードが入ったために業界全体が下降にある。

○状況，事業概要

ブラウス関係は加工業者が多く1年間の内に波が多いうえに上記の様な他産地（縫製産地）に機械が入ったために昨年と異り下降してしまった。

婚礼関係は上記の通り

○今後の課題

① 技術者養成とコンピューター、ジャカードミシンの技術的な面とアタッチメントの刺繍技法等の研究、機関の設立が急務であるが各業者が加工業のために難しい点があるので現在は業者の意識をかりたてる事にある。

② 市場調査

(イ) 婚礼関係については日本中の婚礼人口の調査

(ロ) 貸衣裳店、互助会、会館等の分布、内容調査

(ハ) ブラウス、雑貨関係も同じ

(10) 桐生織物買継商友会

○商品，消費者ニーズの変化について

ふだん着の需要が年々減少し冠婚葬祭向けの商品に関しては流行もなく，特にニーズもないが，一般呉服物に対しては手工芸感覚の強い商品の要求が多くなっている。

○状況，事業概要

1～3月 春物の実需と夏物の仮需要で商況に活気見られるも前年対比量的に減少

4～6月 前期夏物の追加受注あるも後半は夏物整理期で実のない状況，しかし1部特定商品の秋冬物オリジナルの受注がある。

7～9月 夏期休暇が終る8月下旬から問屋の荷揃えが始り活発な荷動きが見られる。しかし最近の傾向として問屋リスクの商品が少なく生産業者の積極策が自然と失われて来ているのが残念である。

10～12月 追加受注多少あるも全体に沈滞ムードで正月商戦に期待するも，最近は年末の荷揃えも手控える様になり業界も根本から考え直さねばならない。

○今後の課題

大量生産性商品から今後は消費者のニーズをあらゆる方面の関係から情報を把握し，手工芸感覚の少量，生産性の商品の開発研究が必要であり，業者間の商品の交流を計り一層の団結を以って前向きに進んで行かなければならない。

(11) 群馬県綿スフ織物工業組合

○商品，消費者ニーズの変化について

- ・中川産業はコンピューター関連の資材に集中生産しているが，需要は多いにかかわらず，生産工程がむずかしいので，量は伸びない。

- 白十字は衛生材料のメーカーとして指定販売業者に販売をゆだね順調に生産を続けている。

○状況，事業概要

- 中川産業はガラス繊維分野で操業がされていて，綿スフ等の一般繊維は包帯のみである。コンピューター関連資材，省エネのための自動車関連資材，建築表面張り，クロスなどで，ほとんど工業用資材である。このうちコンピューター関係では全国の95%のシェアを持ち，益々順調親会社である日本紡績（株）のグループとして生産資材を販売している。
- 白十字は医療の進歩，国民生活の向上により，その生産品の需要は拡大しつつあるが，一方に全国的の同業者との競合も無視できない。

○今後の課題

- 中川産業 コンピューター時代を迎え順調に推移するが，今後コストダウンを如何にするかである。
- 白十字 全国的に競合するから更に新設備の導入，人員の削減により，コストダウンが必要である。

(12) 桐生服地協同組合

○商品，消費者ニーズの変化について

この時季は春夏物の生産シーズンである。依然としてレーヨンものが主流である。特に麻がらみ物が好まれている。益々多様化，個性化が進み，品種増，バラエティー化が進んでいる。

○状況，事業概要

前半は「バロック調」物が活発であった。後半は多様化，個性化に加えて小ロット，短サイクル傾向が顕著となった。もともと当業界は，これに対応できる体質であり，桐生の強みが発揮された年であった。

ファッション界も桐生服地に目を向けてきており、今後の展望も明るいものがある。

組合事業として、3月に求評研究会（飯田一代先生）、10月に三菱アセテートとの原糸研究会を開催した。

○今後の課題

小ロット、短サイクルの現状にあっては、ロスを少なくし収益面の確保が特に肝要である。

競合する産地も無くはないがコストの競争でなく、持てる技術力で消費者ニーズにそった新製品開発をしていくことが今後の課題であり、ハードの時代からソフト重視のときである。

桐生市繊維振興協会会員名簿

団 体 名	代 表 者	所 在 地	電 話
桐生内地織物(協)	新井重夫	桐生市永楽町5-1	43-7171
桐生織物(協)	金子匡男	" "	43-2511
桐生商工会議所繊維部会	木村一蔵	" 織姫町2-5	45-1201
桐生織物商業(協)	木村市雄	" 永楽町6-6	22-7567
桐生織物産地元売(協)	木村一蔵	" "	22-9120
両毛輸出織物整染(工)	朝倉融	" "	22-2775
桐生染色(協)	丸山茂	" "	22-9661
桐生繊維製品(協)	栗原守男	" 仲町三丁目15-20	43-5115
桐生服地(協)	小林松	" 永楽町5-1	43-7171
桐生糸商組合	川村佐助	" 仲町三丁目15-6	44-4171
東日本編レース(工)	黒沢岩雄	" 永楽町6-6	22-3847
桐生撚糸(工)	坪川二郎	" "	44-9431
桐生婦人子供服製造協	中島静雄	" 川内町一丁目47-14	65-7143
両毛輸出スカーフ(協)	古谷恒	" 浜松町二丁目8-20	44-1771
桐生織物整経(協)	高久勇雄	" 永楽町6-6	22-9184
桐生意匠(協)	柘植洋二	" "	22-7088
桐生紋紙(協)	高橋金五郎	" "	22-5854
東毛ジャカード刺繍(協)	朝倉健太郎	" 新宿三丁目7-34	43-1166
桐生刺繍商工業(協)	栗原優介	" 永楽町6-6	22-7919
桐生金銀糸(協)	今西洋右	" 新宿三丁目4-57	22-8539
桐生織物買継商友会	小沢圭正	" 広沢町二丁目3125-53	54-0030
群馬県綿スフ織物(工)	松島武雄	" 永楽町5-1	43-2511